

平成29年7月21日（金）

校長便り

今の自分が将来の自分をつくる
将来の自分のため、今を頑張る！

1学期を振り返って

今日は平成29年度1学期の終業式です。皆さんにとってどのような学期でしたか。新入生歓迎球技大会からフィールドワーク、高校総体、各定期試験等、校内外の多くの行事に全力を尽くし切れたでしょうか。もしできていたら、これからもその調子で頑張ってください。充実した時間をなかなか過ごせなかった人も、いくらでも修正はできます。これからの自分に期待しましょう。夢や希望を進路実現という形で目標にすることで勉強や部活に努力できるようになります。自分自身の進路についてよく考え整理しておくことで本当に意味のある努力につながります。現実の自分とかけ離れた進路では努力が実を結ばないこともあるでしょうし、あまりに簡単で安易な目標だと努力の甲斐もありません。目標は高く掲げることが大切ですが、その際、担任や進路部の先生に必ず相談をし、適切なアドバイスをもらい、進路実現のために戦略をもってチャレンジしてください。これから始まる夏休み、しっかりと進路のことを考える時間を取りましょう。

「命の授業」

先日、聖路加国際病院の名誉院長の日野原重明さんが105歳で死去した。沖縄にも何度も来られ11年の銘苅小学校では「命は目に見えないけれど、一人一人が持っている時間のこと。それを大切にして、人のために使うことが『生きる』ことだ。と述べ、「将来、どういう大人になるのか今から考え、目標に向かって頑張ると、エールを送られた。

ご自身も100歳を超えても現役の医者であり続け、「究極のゴールはより良く生きること。よく老いることは、いくつになっても新しい挑戦に情熱を燃やし、始めることができる。」と、より良く生きることを実践されていた。

また、今月は九州の大雨が原因の川の氾濫、土砂災害で約30名の方が命を落とされた。身重の若いおかあさんが幼子を腕に亡くなった。先月は歌舞伎俳優の市川海老蔵さんの奥様でアナウンサーの小林麻央さんが34歳で幼い子供2人を残し乳がんで亡くなられた。闘病中の9ヶ月で352回もブログを更新し、生への希望をあきらめなかった。この2ヶ月、天寿を全うする命、予想できない天災に奪われた命、そして病気による無念の死を聞いて、言葉を失った。日野原先生が言われる、命とは一人一人が持っている時間のこと。長い命もあれば、短い命もある。ならば生きている時間は輝いていたい。輝くということは目標に向かって情熱を持って挑戦することである。残された人生の時間を有意義にするために、今、この時をチャレンジの姿勢で生きたい。

